

広瀬川 創生プラン

2025▶▶▶2034

(中間案)



令和7年○月

広瀬川創生プラン策定推進協議会
仙台市

広瀬川 創生プラン 2025▶▶▶2034 (中間案)

目次

序章 広瀬川の魅力	1
1 広瀬川の特徴	3
2 広瀬川環境改善の取組み	9
第1章 広瀬川創生プランとは	11
1 策定の背景と目的	13
2 広瀬川の範囲	14
3 計画の位置づけ	15
4 計画期間	16
第2章 目指す広瀬川の姿と目標	17
1 基本理念	19
2 基本目標と施策の方向	23
第3章 推進体制	33
1 推進体制	35
2 各主体の役割	36
3 活動の支援	37
第4章 推進状況の評価	39
1 1年ごとの取組状況の把握	41
2 計画期間ごとの推進状況の評価	42
参考資料	43
1 広瀬川創生プラン改定の検討過程	45
2 広瀬川に対する市民意識調査(概要)	47
3 広瀬川での活動団体へのアンケート調査(概要)	54
4 広瀬川創生プラン策定推進協議会委員名簿	55

序章

広瀬川の魅力

- 1 広瀬川の特徴
- 2 広瀬川の環境改善の取組み



1 広瀬川の特徴

(1) 広瀬川と仙台のまち

広瀬川は、青葉区作並地区の関山峠付近を源流とし若林区日辺地区で名取川に合流します。

名取川と合流するまで市域内で完結しており、その流域面積は市域面積のおよそ半分を占めています。

上流域には鳳鳴四十八滝などの景勝地や豊かな自然が残っており、さらに都心部が位置する中流域でも美しい自然崖や緑を気軽に楽しむことができます。

日本の多くの都市が、河川の下流域や河口域に発達していますが、仙台市は中流域の河岸段丘上に市街地が発達しているのが特徴です。

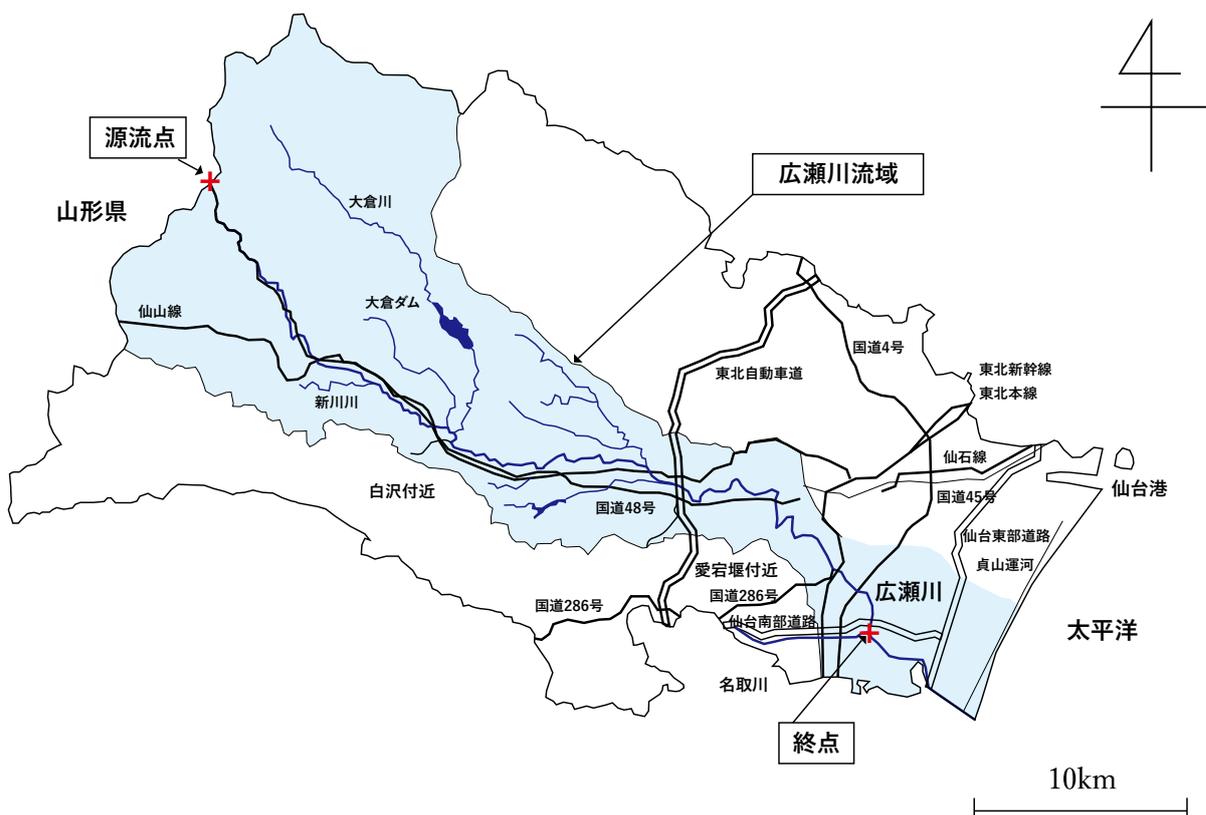
伊達政宗公が仙台城を居住地に選んだ理由として、南は竜の口溪谷、北は沢、西は奥行き深い山林、そして東は全面約60メートルの断崖で、その前を広瀬川が流れる天然の要害となっていることが理由のひとつとされています。

さらに、政宗公は河岸段丘の地形を巧みに利用して、四ツ谷用水を城下に導いたことで、広瀬川の水が仙台市の発展に大きく寄与することになりました。

68年の生涯を送った政宗公は、今もなお、広瀬川を見下ろす経ヶ峯で仙台を見守っています。

広瀬川の概要

水系	・名取川水系
種別	・一級河川
流路延長	・約 45km: 関山峠付近から名取川合流地点まで
流域面積	・約 311km ²
規制等	<ul style="list-style-type: none"> ・広瀬川の清流を守る条例 ・仙台市屋外広告物条例 ・杜の都の風土を育む景観条例 ・杜の都の環境をつくる条例
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・名水百選(環境省) / 「広瀬川」: 1985年 ・残したい日本の音風景 100選(環境省) / 「広瀬川のカジカガエルと野鳥」: 1996年





①



②



③



④



⑤



⑥

① 中流域の自然崖（米ヶ袋付近） ② 広瀬川の始点上流端標柱 ③ 蛇行する広瀬川（川内付近） ④ 名取川広瀬川合流点付近（出典：空から見た広瀬川／仙台河川国道事務所 HP） ⑤ 仙台橋（大橋）の擬宝珠（ぎぼし）：仙台市の指定・登録文化財（仙台市博物館所蔵）、擬宝珠には銘文「仙台橋 仙人橋下 河水千年 民安国泰 孰与堯天 慶長六年 辛丑臘月吉辰 藤原政宗 門士川嶋豊前守奉造」と刻まれる ⑥ 瑞鳳殿

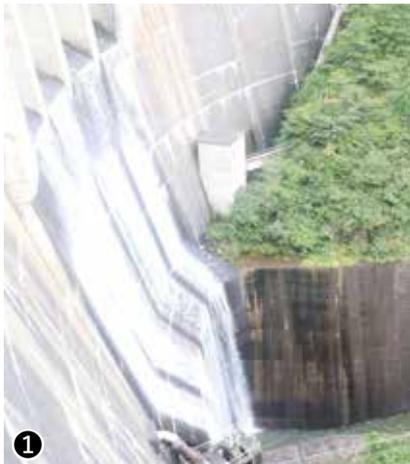
(2) 広瀬川の植物

奥羽山脈を源流とする広瀬川は、名取川と合流するまでの間に、山地、丘陵地・台地、低地と変わっていく地形的特性があり、これに伴う気候的な違いにより、広瀬川流域には多様な植生が分布しています。

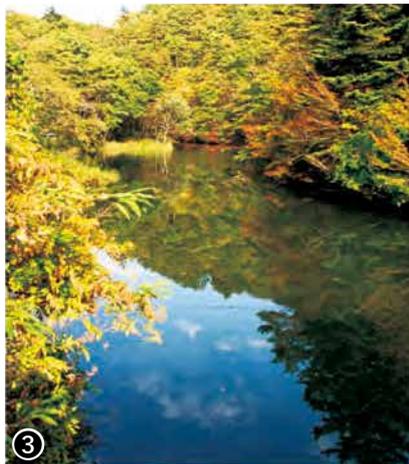
山地が多い上流域では、この地帯の気候的極相林であるブナ林が広がっているほか、コナラやミズナラ等の落葉広葉樹の二次林があります。

中流域の丘陵地ではアカマツ、スギ、ヒノキ等の針葉樹の二次林が広がっています。自然崖ではケヤキ林が帯状に広がっており、青葉山ではこの地帯での気候的極相林であるモミ・イヌブナ林が見られます。

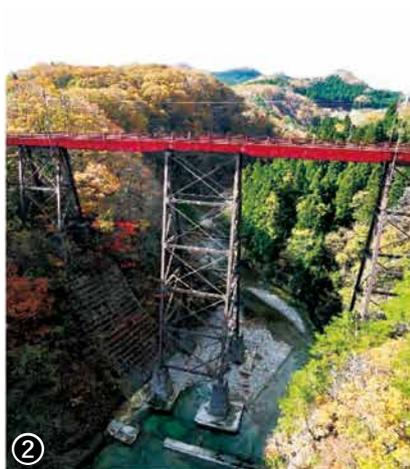
下流域の低地や台地にはコナラ、アカマツ、スギ、ヒノキ等の二次林が散在しています。



①



③



②



④



⑤

① 大倉ダム ② 第二広瀬川橋梁（JR 仙山線陸前白沢駅～熊ヶ根駅間） ③ 青下水源 地 青下第1ダム
④ 新川山田橋付近 ⑤ セイコウ大橋より上流を望む



① 仙台城跡から広瀬川を望む ② 大橋 ③ 三居沢 ④ 広瀬川灯ろう流し・光と水とコンサートのタベ
⑤ 広瀬川中河原緑地 ⑥ 広瀬川八本松緑地 ⑦ 宮沢緑地周辺を俯瞰する ⑧ 評定河原大露頭 ⑨ 賢淵
⑩ 郡山堰 ⑪ 七郷堀としだれ桜

(3) 広瀬川の動物

広瀬川とその水辺は、多くの貴重な生物の生息空間となっています。魚類においてはアユやサケをはじめ約30種類、鳥類についてはヤマセミやカワセミなど約120種類が確認されています。

さらに日本の固有種であり、きれいな流水に棲むといわれるカジカガエルは、市街化に伴い一時は減少したものの、清流の復活とともに回復し、現在は上中流域でその美声が聞かれます。

「残したい日本の音風景100選」（環境省）として「広瀬川のカジカガエルと野鳥」が選出されています。たくさんの生き物が共生する広瀬川は、自然に対して関心や学ぶきっかけを与えてくれます。



①モクズガニ（「カワラバン」提供写真）

②カワセミ

③ヤマセミ

④カジカガエル

⑤サケ

⑥アユ

2 広瀬川の水環境改善の取り組み

広瀬川は、古くから仙台に住む人々の生活を支え、都市の発展に貢献してきました。

戦後の復興事業を終えると、経済成長とともに開発が進み、都市の公害問題が生じてきました。市内を流れる河川は、ごみの投棄や生活排水の流入など深刻な問題を抱えるようになりました。

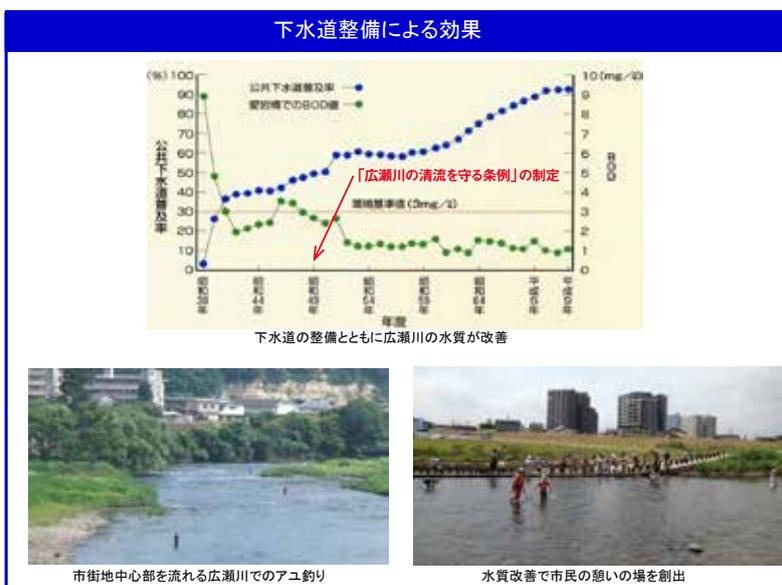
昭和37年（1962年）、仙台市が健康都市宣言を行い、生活環境の改善等を課題として市民とともに取り組みました。こうした中、特に汚染が進んでいた梅田川において、市民による清掃活動が始まり、やがて市内全域の河川浄化運動として、広瀬川を含む他の河川にも広がっていきました。

また、杜の都のシンボルとしての風景や市民の憩いの場の創出を目指し、下水道の整備も並行して進めてきました。

こうした地域の環境改善活動は市民と行政が協働で取り組んだ成功事例となり、昭和49年（1974年）の「広瀬川の清流を守る条例」の制定につながりました。

このように、市民と行政とが共通の目標を掲げて環境改善に取り組んできたことで、広瀬川は市民共有の財産となり、「仙台七夕花火祭」や「広瀬川灯ろう流し」といった行事のほか、散策や芋煮会など市民が気軽にレジャーを楽しむ川としても親しまれています。（10ページ_写真①～④参照）

下水道整備による清流復活への取り組み



出典：下水道事業のストック効果事例／国土交通省



① 広瀬川灯ろう流し・光と水とコンサートの夕べ ② 仙台七夕花火祭 ③ 米ヶ袋周辺での芋煮会
④ 牛越橋周辺での芋煮会